

# 「学びの改革 基本構想」について

長野県教育委員会

## 「学びの改革」の必要性

### 社会の激変への対応

知識・技能を高めて**社会に適合**

育成する力の転換

主体的・協働的な課題解決力を高めて**社会を創造**

### 少子化への対応

中学校卒業生数が約15年で3/4程度に減少

※平成28年の20,600人程度が平成42年には16,300人程度になり、約4,300人減少

## 学びの改革

### ①新たな学習方法「探究的な学び」の推進

- ・教科の授業に「探究的な学び」の手法を取り入れて授業を改善
- ・キャリア教育の視点を重視した「探究的な学び」の推進
- ・「探究的な学び」の核としての「信州学」の推進
- ・各地域に「探究的な学びをさらに深める学科」を設置



### ②学びの質・環境の充実と改善

- ・「社会に開かれた教育課程」「カリキュラム・マネジメントの視点を持った教育課程」の開発
- ・各校における教育改善の議論促進と教員研修の改善
- ・専門教育、定時制・通信制教育の充実と適正配置、学科の在り方の検討
- ・学校全体で特別支援教育に取り組む体制づくりと、通級による指導を国の施策に合わせて導入
- ・ICT環境の充実、地域と連携した学びの創造
- ・入学者選抜制度の改革 等

### ③立地の特性を活かした高校づくり

少子化に対応して全県一律の再編基準を適用した場合、中山間地の高校は存続が困難

### 都市部と中山間地で異なる再編基準を設定（中山間地には都市部より配慮した基準を適用）

<都市部存立校と中山間地存立校の考え方と規模>

#### 都市部存立普通校

募集学級数6学級以上が望ましい(8学級規模も検討)

#### 都市部存立専門校

募集学級数3学級以上が望ましい

#### 中山間地存立校

募集学級数3学級以上が望ましい

#### 中山間地存立特定校

募集学級数1学級の単独校

特例

## 今後の検討スケジュール（予定）

### 【平成29年度】 「学びの改革 実施方針」の作成

- 内容 ・地域や学校の特色を活かした「新たな教育の推進」
- ・地域ごとの再編の基本理念・方針を含む「新たな高校づくり」

※旧通学区ごとの地域懇談会や、各種団体からの意見聴取を通して、幅広く県民からご意見を聞きながら、平成29年10月には「実施方針（案）」を、年度末には「実施方針」を決定予定

### 【平成30年度以降】

- 旧通学区ごとに具体的な検討を進め、まとまったところから個別の再編計画を策定